

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.07.No227

7月号

目次

第41回 一般社団法人 北海道建築士会 全道大会（室蘭大会） “来たれ建築士、道南は西いぶりへ！”……1
青年・女性の窓……………5 〔青年委員会〕
実行委員会報告……………6 〔ヘリテージ特別〕
Coffee Break……………7
information……………8
URL http://www.h-ab.com/

第41回 一般社団法人 北海道建築士会全道大会（室蘭大会） “来たれ建築士、道南は西いぶりへ！”

- 大会テーマ 「鉄と湯けむり・大地のめぐみ」
- サブテーマ —西いぶり共生の未来—



第41回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長
室蘭支部 支部長 半崎敏裕

第41回北海道建築士会全道大会の舞台が、道東ブロックは紋別オホーツクの海から、道南ブロックは太平洋に面する室蘭に引き継がれました。

室蘭大会は3度目となります。前回は第26回大会で、サミットを含めて3日間開催で、16年前でした。当時の資料をめくりますと、大会参加者は500名を越えておりました。青年サミットは参加者160名余り、そして、5つの分科会でした。今、規模は小さくなり

ましたが、内容の濃い大会となっております。室蘭支部は、西いぶりの3市3町の集合であります。ご存知のように太平洋そして噴火湾に面し、海の幸の宝庫であり、農業も野菜作り、酪農も盛ん、国内有数の製造業、又、世界的にも有名な観光産業の登別温泉、洞爺湖温泉、暮らしに欠かせない高度医療施設、福祉施設、そして教育機関が揃っており、西いぶりだけで独立出来るのではと思うほどです。

今、道内のどの地区を見ても少子高齢化の波が押し寄せ、西いぶりも近い将来、広域合併という問題が再燃することでしょう。行政では広域連携は早くから行われております。そして今年是新幹線元年となりました。今、観光産業が注目されております。世界の国々から多くの観光客が来道しております。我々建築士が皆さんのマチ、その周りのマチ、広域でどんな関わりを持つべきか、室蘭で語ろうではありませんか。

室蘭いや、西いぶりが皆さんをお待ちしております。

[大会プログラム]

月 日	時 間	開 催 内 容	会 場	
9月30日 (金)	13:00~13:30	青年サミット 受付	室蘭建設会館 1階 大会議室	
	13:30~17:30	青年サミット テーマ：『鉄のまち室蘭からものづくりの原点を感じる』		
	18:30~20:30	懇親会		ろばた焼 番屋
10月1日 (土)	10:30~12:00	来賓・大会参加者受付開始	蓬峯殿 1階 ロビー	
	11:30~12:30	昼食	蓬峯殿 1階 瑞節の間	
	12:30~14:30	分科会 A分科会 (女性委員会) B分科会 (まちづくり委員会) C分科会 (青年委員会)	蓬峯殿 2階 銀河・光耀の間 蓬峯殿 2階 翔運・慶雲の間 蓬峯殿 1階 明庭の間	
		15:00~16:30	大会式典	蓬峯殿 1階 黎明の間
		16:50~18:00	基調講演	蓬峯殿 1階 黎明の間
	18:30~20:30	懇親会	蓬峯殿 1階 エクセレントホール	

A分科会 素材～天然素材のほたて貝～西いぶり編

女性委員会

西いぶりには、様々な自然（海・山・湖）や温泉が存在し、人々はそれらから豊かな恩恵を受け生活しています。周囲に活火山が多いため名づけられた「噴火湾」。そこに面した室蘭市・伊達市・豊浦町などではホタテの養殖も盛んに行われています。

A分科会では継続して取り組んでいる「素材」において、道内で多く産出されるホタテ貝殻を活用した「ほたて漆喰」に焦点を当てます。「漆喰」は、日本で古来より用いられている伝統的な左官材料であり、その質感は見る者に安らぎを与えてくれます。その中でも「ほたて漆喰」は、ホタテ貝特有の多孔質構造により、消臭・調湿性に優れた材料といわれています。自然と人との共生、北海道における地材地消について学び、自然の恵みを建築に活かす方法と建築士が自然素材を消費者へつなぐ役割について考えていきます。

B分科会 歴史×観光×ものづくり～室蘭のまちづくりから学ぶ～

まちづくり委員会

「鉄のまち室蘭」と称されるほど鉄のイメージが強い室蘭市。ところが、「海」「山」「工場夜景」などの観光資源もあり、また道内への、石炭の積出駅や港として栄えた歴史のあるまちでもあります。かつては人口18万人以上を有し、人口密度が北海道内で最も高い活気のあった時期もありましたが、現在は10万人を割り人口減少が続いています。

B分科会では、そのような現在の室蘭において、「歴史×観光×ものづくり」という視点から“まちづくり”を積極的に行っている方々にスポットを当て、その活動内容を学ぶとともに、今後の室蘭はどうあるべきか？ そのためには何が必要なのか？ など、参加者も含めたディスカッションの場を設け、今後のまちづくりの可能性を探っていきます。

C分科会 避難所運営ゲーム（HUG）を通して、建築士の役割を考える

青年委員会

東日本大震災から5年、東北の被災地で復興が進む中、今年4月に熊本地震が九州を襲いました。まだ混乱が続く中ではありますが、私たち建築士が出来ることは何かを、今こそ考えなければならぬと感じています。北海道も例外ではなく、根室での高潮被害やオホーツク管内で起こった暴風雪も記憶に新しい所です。災害による被害を最小限にとどめるには、災害にどう備えるか、いざという時にどう行動するかを日頃から考えておくことが大切です。C分科会では、建築士として防災・減災のために、仕事の中で又は地域の中で出来ることは何かを考え、被災した時にどう行動すれば良いかを、避難所運営ゲーム（HUG）を通して考えていきます。

※HUGは、H（hinanzyo避難所）、U（unei運営）、G（gameゲーム）の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。ゲームという言葉が使われていますが、遊び感覚ではなく、避難所運営を学ぶための有効な研修です。

号外 情報委員会は今年も号外を発行！

あなたの知っている室蘭、あなたの知らないMURORAN、
大会のドキドキ、わくわく、再発見をお届けします。

基調講演

テーマ：『映画と私とふるさと西いぶり』

講師：映画監督 坪川 拓 史 (つばかわ たくし 1972年2月25日生)



北海道長万部町出身の映画監督。俳優、アコーディオン奏者。室蘭市在住。1990年に上京し、日本工学院専門学校に入学するが、中退。2011年より室蘭市に移住。串田和美主宰の劇団「オンシアター自由劇場」に入団し、研究生となる。その時オーディションで楽器が出来るか問われ、咄嗟に「アコーディオンが出来ます」と言ったことからアコーディオンを始める。役者を経て自ら映画製作も始め、1995年に無声映画『十二月の三輪車』で監督デビュー。現在、『モルセラニの霧の中』という映画撮影を行い、西胆振を中心に地元の魅力の世界に発信すべく、また住人自らが企画、製作に一から関わり、さらに助演も務めて銀幕デビューを目指すプロジェクトを進行中。

■エピソード：1作目「美式天然」は「第23回トリノ国際映画祭」長編コンペティション部門に招かれ「Best Feature Prize (グランプリ)」「Best Audience Prize (最優秀観客賞)」のW受賞という日本人初の快挙を成し遂げる。

青年サミット 「鉄のまち室蘭からものづくりの原点を感じる」

■テーマコメント

室蘭の現在は、一般的な地方都市同様、産業の衰退・社会情勢の変化と共に人口が減少し、空き家や少子高齢化等の問題を抱えています。しかし、優れた技術・技能と人材が集まり、「ものづくりの街」としての歴史は、今も尚刻まれています。

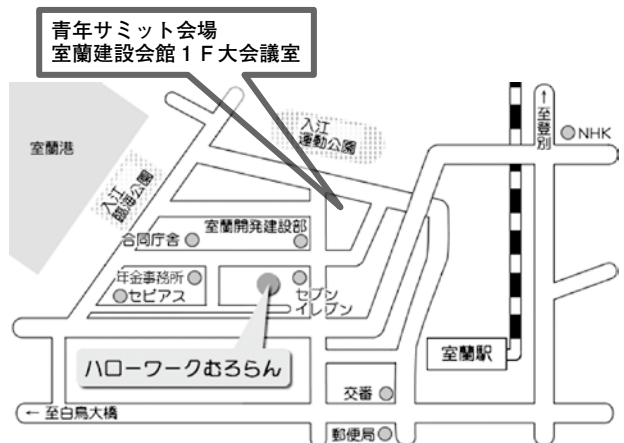
「ものづくり」の現場を体感することで、その原点を身体で感じてみよう。

どんな時代になっても、「ものをつくる」ということは人々の想いや夢をカタチにする大切な役割を担うから・・・

■プログラム

- 13:00~13:30 ■受付
- 13:30~14:00 ■挨拶・進行説明
- 14:00~16:20 ■新日鐵住金見学
- 16:20~17:25 ■旧絵鞆小・白鳥大橋見学
- 17:25~17:30 ■総評・事務連絡
- 18:30~20:30 ■懇親会

第41回全道大会（室蘭大会）会場ご案内



<p>■大会・基調講演・分科会・懇親会・総合会場 蓬峯殿 室蘭市宮の森町1-1 TEL 0143-44-3338 専用駐車場 150台</p>	<p>■青年サミット会場 室蘭建設会館 1F 大会議室 室蘭市入江町1-74 TEL 0143-22-1045 専用駐車場 108台</p>	<p>■青年サミット懇親会会場 ろばた焼き 番屋 室蘭市中島町1-23-7 TEL 0143-46-2440 専用駐車場 なし</p>
---	--	---